

赤い羽根共同募金運動が 今年も始まりま

じぶんの町を良くするしくみ

今年も「あなたの町の募金は、あなたの町のために使われています。」をキヤッチコピーに、10月1日から赤い羽根共同募金運動が実施されます。

共同募金運動で、皆様方からお寄せいただいた寄付金は、県内の民間福祉活動やボランティア活動、さらには災害ボランティアへへの支援などに活用されています。

本県における一世帯当たりの募金額は678円であり、この額は全国で島根県に次ぐ第2位で、ここ20年余り、島根、岩手の順番は不動となっています。これは岩手県民の募金に対する意識の高さの表れです。

また、地域で必要な民間社会福祉財源を確保するため、共同募金の果たす役割は大きく、安心して暮らせる地域づくりを目的に、地域のさまざまな活動を支援するために活用されています。

一方、地域においては、新たな生活課題や福祉課題が顕在しており、社会的な背景も重なって、複雑かつ多様化しているのも事実です。共同募金は、このような地域の課題を解決するため活動している民間団体、NPO法人等を支援する民間財源として期待されており、その役割が一層求められています。

全国的には、募金の約7割は集めた地域の福祉活動に活用されるとともに、約3割は広域での福祉活動や、県域を越えた災害支援活動に使われています。本県の状況では、毎年募金額の約8割が、地域の福祉活動に役立てられています。



誰もが住み慣れた町で 安心して暮らせることを目指して

社会福祉法人岩手県共同募金会 会長 長山 洋

共同募金運動は、戦後間もない1947年に「国民たすけあい運動」として始まり、おかげさまで今年73回目を迎えました。

今日では、「地域福祉の推進」と位置づけられ、様々な福祉課題の解決を目的とした民間活動を支援する運動として、全国的に展開されています。

本年度も、皆様が安心して暮らせるまちづくりを目指し、募金運動に取り組んでまいります。温かいご支援、ご協力をお願いいたします。

共同募金

目標額と使いみち

共同募金は、使いみちを事前に定め、それに基づき募金を行う計画募金です。

地域のボランティア団体、社会福祉協議会、福祉団体など様々な民間福祉団体から助成の要望を受け、あらかじめ「使いみちの計画（助成計画）」を立案することが義務付けられています。

また、助成計画の達成に向け、必要額を今年度の「募金目標額」として運動を展開します。

各市町村共同募金委員会では、各々の地域の「募金目標額」を達成するために必要な額を「目安額」として、各世帯に募金の協力を依頼しています。

本県の今年度の募金目標額と使いみちは、次のとおりです。

今年度も、みんなが安心して暮らせるまちづくりを目指し、募金運動に取り組むこととさせていただきますので、温かいご支援、ご協力をお願いします。



令和元年度の募金目標額

3億7,028万円

赤い羽根募金2億2,676万円
 歳末たすけあい募金1億4,352万円

災害対策に

1,166万円

[内訳]

- ①火災等による被災世帯への見舞金…100万円
- ②大規模災害時の支援活動に向けた積立て…1,066万円

歳末たすけあい助成として

1億4,339万円

一人暮らし高齢者や障がい者・要保護児童等への激励金、冬季間の地域交流事業、その他の地域福祉活動
 ※各市町村で助成内容が異なります。

県内の共同募金運動を推進するために

6,660万円

社会福祉施設の整備に

1,275万円

建物修繕、車両・機器整備等

地域の福祉活動に

1億4,186万円

[内訳]

- ①社会福祉協議会等の活動…1億3,636万円
 高齢者・障がい者・児童・子育て家庭の支援、その他住民を支える活動（被災者・生活困難者支援等）
- ②地域の生活課題を解決するNIPO団体等の活動…50万円
- ③ボランティア団体、町内会等の福祉のまちづくり活動…500万円

※ 募金目標額と使いみちの差額については、配分予備金を充当します。



昨年度の共同募金運動開始セレモニーの様子

岩手県共同募金会の実施事業

あったかいわてプロジェクト 〜地域みまもり応援募金〜

岩手県共同募金会では、令和2年1月1日から3月31日まで、「あったかいわてプロジェクト〜地域みまもり応援募金〜」を実施します。

この募金は、「生活課題解決支援事業」（公募事業）に採択された団体が、課題解決の必要性や団体の活動をアピールし、自ら募金活動を行うことで、寄付者の理解と共感を得て、応援したい団体や解決したいテーマを選択し募金できる「テーマ型募金」です。

今年度は、次のテーマで宮古市社会福祉協議会が運動を展開しますので、皆様のご理解、ご協力をお願いします。



採択団体	社会福祉法人宮古市社会福祉協議会
事業名	生活困窮者等の社会的孤立の解消と居場所づくり
解決したい課題	<ul style="list-style-type: none"> 生活困窮者等、複合的課題を抱えた方々の居場所がなく、就労支援も十分ではない状況 地域の中でのつながりや役割を得られる仕組みづくりが必要
活動内容	<p>「café to calm ～和～（仮称）の運営」</p> <ul style="list-style-type: none"> 就労準備拠点施設において、平日10時から15時までカフェを運営 提供するメニューは、株式会社ネスレと提携し食材を購入 就労準備支援事業利用者等が、ネスカフェアンバサダーとなり、カフェ店員として、地域住民やサロン活動を行う利用者に、カフェや軽食を提供
目標額	500,000円

「福祉のまちづくり支援事業」助成事業を募集します

地域での福祉活動に直接使用する機器・用具の購入経費などを助成します。

- 【募集期間】 令和元年10月15日から11月29日まで
- 【事業実施】 令和2年度
- 【助成対象】 地域福祉の向上を目的に活動を行う岩手県内のNPO・ボランティア団体や町内会・自治会等の住民グループ
- 【対象経費】 幼児・児童、高齢者、障がい者、その他住民を対象に行う福祉活動に直接使用する機器・用具の購入経費
- 【助成額】 1万円から20万円まで

詳しくは、岩手県共同募金会（TEL:019-637-8889）までお問合せください。

助成先・助成内容の紹介

共同募金は、高齢者のふれあいサロンや配食サービス、障がい者の送迎サービスや就労支援、子育てサロンや育児等の相談事業、地域のみまもり支援や孤立防止活動など、様々な福祉活動に役立てられています。平成30年度から今年度にかけて助成事業を実施した団体を、一部ご紹介します。

NPO法人岩手県青少年自立生活支援センター 「ポランの広場」(盛岡市)

不登校・ひきこもりの親子・若者を支える活動を行っている団体

相談・カウンセリング活動、若者会(若者たちの交流の場)、学習会等の活動経費を助成



絵本の読み聞かせを初体験しました。助成金は、私たちの日頃の活動を支え、新たなことに挑戦できる力となりました。

音声訳 はなことばの会(奥州市)

広報、新聞、小説、取扱説明書等を音声訳・デイジー編集し、視覚障がい者に情報提供を行っている団体

活動の迅速化のため、ノートパソコン、録音・編集用ソフト等の購入費を助成

おかげさまで録音・編集が迅速にでき、視覚障がい者の方に、早く図書を届けることができました。



おはなしぱちぱち(一関市)

保育園児、幼稚園児、小学生等を対象に、絵本の読み聞かせ、おはなし会、昔語りなどを行っている団体

おはなしの音が効果的に伝えられるよう、マイク、アンプ等音響機器の購入費を助成



マイクを整備できたので、活動の幅が広がり、スムーズにおはなし会ができるようになりました。街頭にもおはなしが届き、大きな反響がありました。

南昌コミュニティ(矢巾町)

住民が互いに協力し合い、支え合い活動を行っている団体

高齢者・地域住民等の交流をさらに活発に行い、地域の結束力が高められるよう、活動に必要な機器の購入費を助成



おかげさまで、整備した機器を大いに活用し、健康増進・住民支え合い活動、世代間交流などを活発に展開しています。